

## 第1回 「全国主要空港における大規模自然災害対策に関する検討委員会」

## 主なご意見

- 本委員会では、①ハード・ソフト対策及びその運用が適切になされているか、②設計値を超える外力に対し、施設がどのような適応力を持っており、それが適切であるか、③今回の災害でスマートフォンや電力にいかに依存しているかが明らかになったように、社会状況が変わりゆく中で災害への適応力は追いついているのか、④今回のような甚大な被害を及ぼしうる巨大災害に対して、国や自治体、民間会社が連携して何を分担すべきなのか、という4つの観点のポイントではないか。
- 本委員会は、関空の解決策を提案することが使命ではなく、今回の事例を参考にして、関空も含めた日本の重要な空港の将来的な安全を担保するものであり、中長期的にどのような対策を打つべきかを議論してきたい。
- 関空における台風 21 号による被災の事例も踏まえながら、日本の種々の空港において、さまざまなリスクに対してこれからどのように臨むべきかという原則のようなものについて検討すべき。また、どれほどの確率の現象に対して被害が出ないように対策するのか、もしくは被害が出ても最小限に留めるように減災するのかということが最も中心的な議論になるのではないか。
- 視察でも水没した GSE 車両があったが、GSE 車両を避難させる計画があったのかが気になり。また、GSE 車両や航空機の浸水を防ぐために格納庫の役割も重要となってくるのではないか。
- 今回は関空がこのような事態になったが、関空のみを対象とするのではなく、過去のさまざまな事例を教訓として対策を検討することが重要。

以 上